

2. 新市の概況

1) 自然的条件

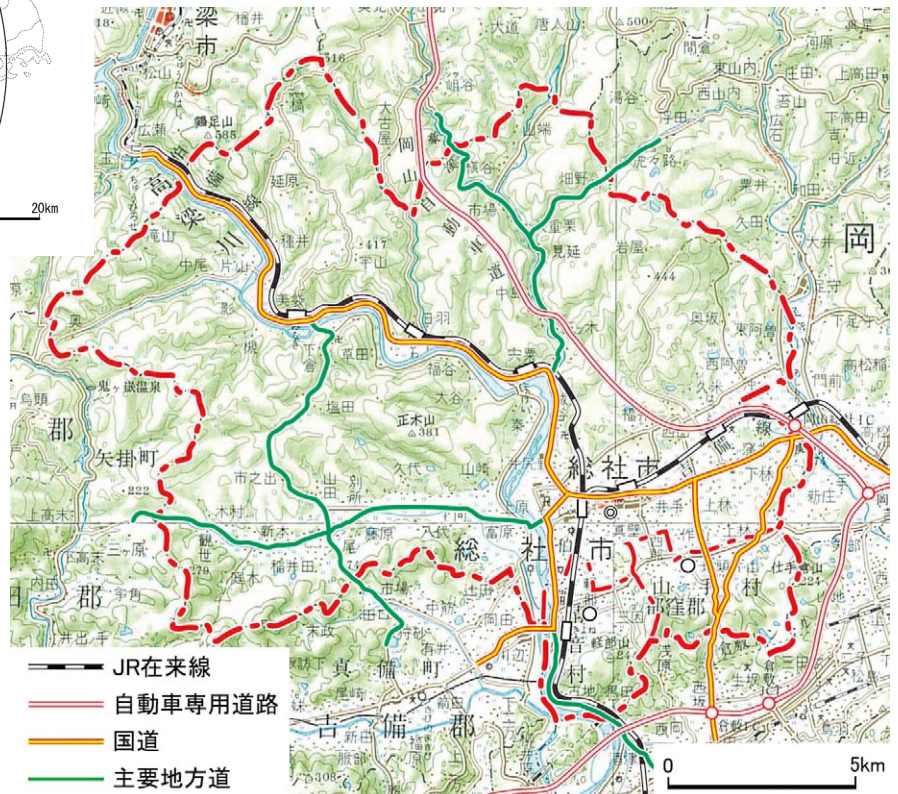
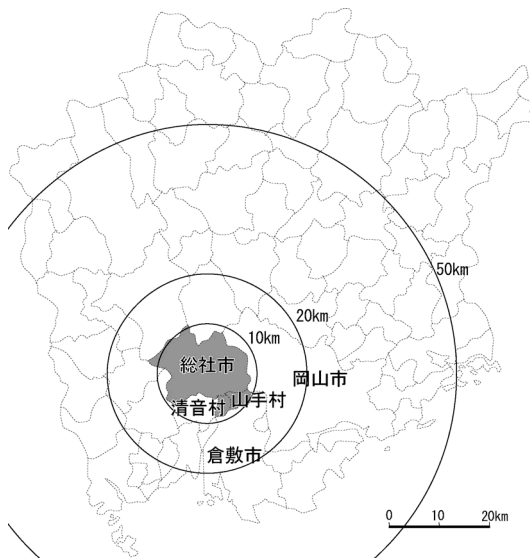
(1) 位置・地勢

総社市・山手村・清音村は、岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市の二大都市に隣接しています。この立地条件の良さが新市の魅力の一つであり、アンケート結果からも「住み良い地域」として表れています。

総面積は212.00km²で、地域の中央を北から南に岡山県の三大河川のひとつ高梁川が貫流し、南部地域は扇状地勢の沖積平野である吉備平野が東西に広がっています。その吉備平野に市街地が帯状に連なり、市街地周辺には集落が形成され静かな農村を形成しています。

中北部は、高梁川両岸に集落が形成されているほか、吉備高原の一部を形成する森林地帯となっており、標高200～400mの山が連なり、山腹に集落が点在しています。また、倉敷市と隣接する南東部には福山山系が東西に座し、南に高く北になだらかな丘陵地となっています。

●位置図



国土地理院 1/200,000地勢図：「高梁」、「岡山及丸亀」

(2) 気候

年平均気温16.5℃前後、雨量は年間1,000mm前後で、瀬戸内海特有の温暖、少雨の恵まれた気候です。

2) 歴史的条件

(1) 地域の沿革

3市村は、かつての古代吉備の国の中心として栄えた地域であり、縄文以前から人々が生活していた形跡がみられます。古墳時代には吉備の中心地として栄えたことをうかがわせる数多くの古墳が残されています。

飛鳥・奈良時代には、備中の国府も置かれ、国分寺、国分尼寺も配置され、備中の国の政治・経済・文化の中心地として栄えました。平安時代には備中国内の神々を合祀した総社宮が建てられました。総社市の名称はこれに由来しています。

鎌倉時代以降は、地方政治の町から山陽道や高梁川の水運を生かした、門前町、宿場町的性格に様変わりするとともに、豊かな農村地域としても発展しました。江戸時代には、岡山藩や足守藩など複数の藩領や幕府領など複雑な統治形態となっていました。

3市村のうち、山手村と清音村は、明治22（1889）年に誕生し、現在に至っています。総社市は、明治、昭和に合併を繰り返しながら、昭和29（1954）年に誕生し、昭和47（1972）年に当時の吉備郡昭和町を編入しています。

高度成長期の昭和40年代頃からは、県南工業地帯の発展に伴い、宅地開発が進むとともに、その後背地として内陸工業も発展しています。近年では、歴史に培われた吉備文化と、高梁川の恵みを始めとする豊かな自然環境を背景に、住宅都市・学園都市としての発展もみせています。

●各市村の主な沿革

	時期	形式	関係市町村
総社市	昭和29 (1954)年	合体	市制施行 ・吉備郡総社町、阿曾村、池田村、久代村、山田村、新本村、都窪郡常盤村 ※昭和26(1951)年 総社町が吉備郡服部村、神在村を編入 ※昭和29(1954)年 総社町が吉備郡秦村、都窪郡三須村を編入
	昭和47 (1972)年	編入	吉備郡昭和町
山手村	明治22 (1889)年	—	村制施行 ・窪屋郡西郡村、地頭片山村、岡谷村、宿村
清音村	明治22 (1889)年	—	村制施行 ・窪屋郡黒田村、古地村、上中島村、柿木村、軽部村、三因村

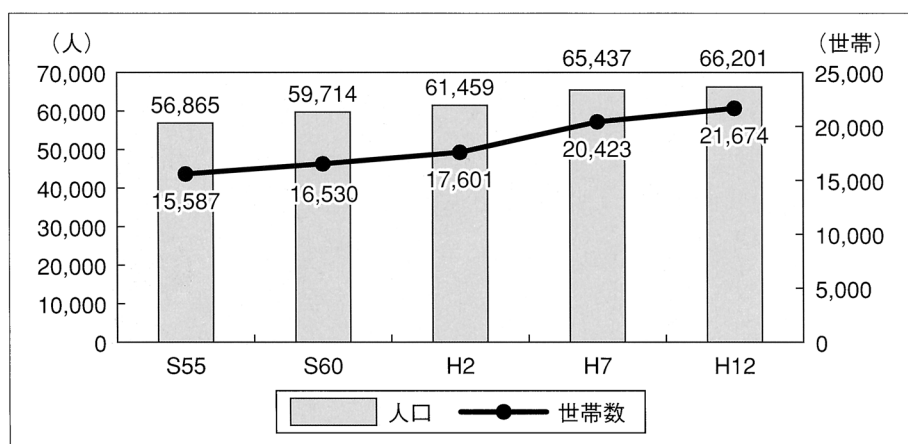
3) 社会・経済的条件

(1) 人口・世帯数

3市村の人口は、近年少しかげりがみられるものの増加傾向にあり、昭和55（1980）年からの20年間で56,865人から66,201人となり、9,336人、約16.4%増加しています。これは、岡山県全体の4.3%と比べると大変高い数値であり、3市村が着実な発展を続けてきたことを示しています。

年齢別人口では、少子・高齢化が進みつつありますが、その進行度合いはそれほど急激ではありません。平成12（2000）年の国勢調査では岡山県全体の年少人口（0～14歳）比率14.9%、老年人口（65歳以上）比率20.2%に比して、3市村は年少人口比率15.6%、老年人口比率18.7%となっています。

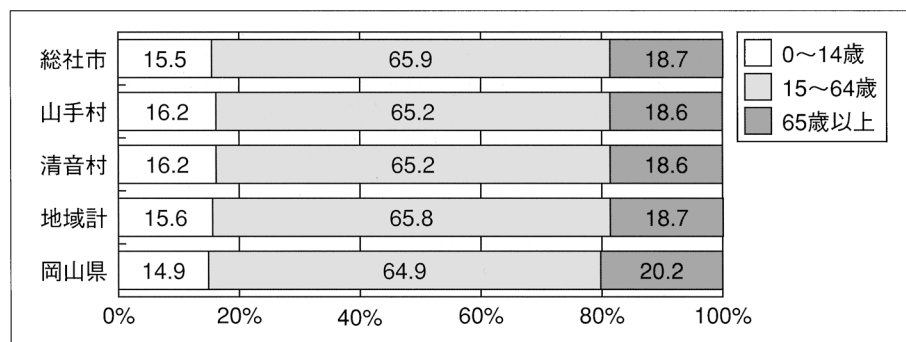
●人口・世帯数の推移



	S55 1980	S60 1985	H2 1990	H7 1995	H12 2000
人口(人)	56,865	59,714	61,459	65,437	66,201
総社市	49,107	51,240	52,724	56,097	56,531
山手村	3,078	3,429	3,629	3,856	4,018
清音村	4,680	5,045	5,106	5,484	5,652
世帯数(世帯)	15,587	16,530	17,601	20,423	21,674
総社市	13,622	14,355	15,309	17,836	18,909
山手村	732	827	896	1,009	1,090
清音村	1,233	1,348	1,396	1,578	1,675

資料：国勢調査

●年齢別人口の比率（平成12年）



(2) 交通条件

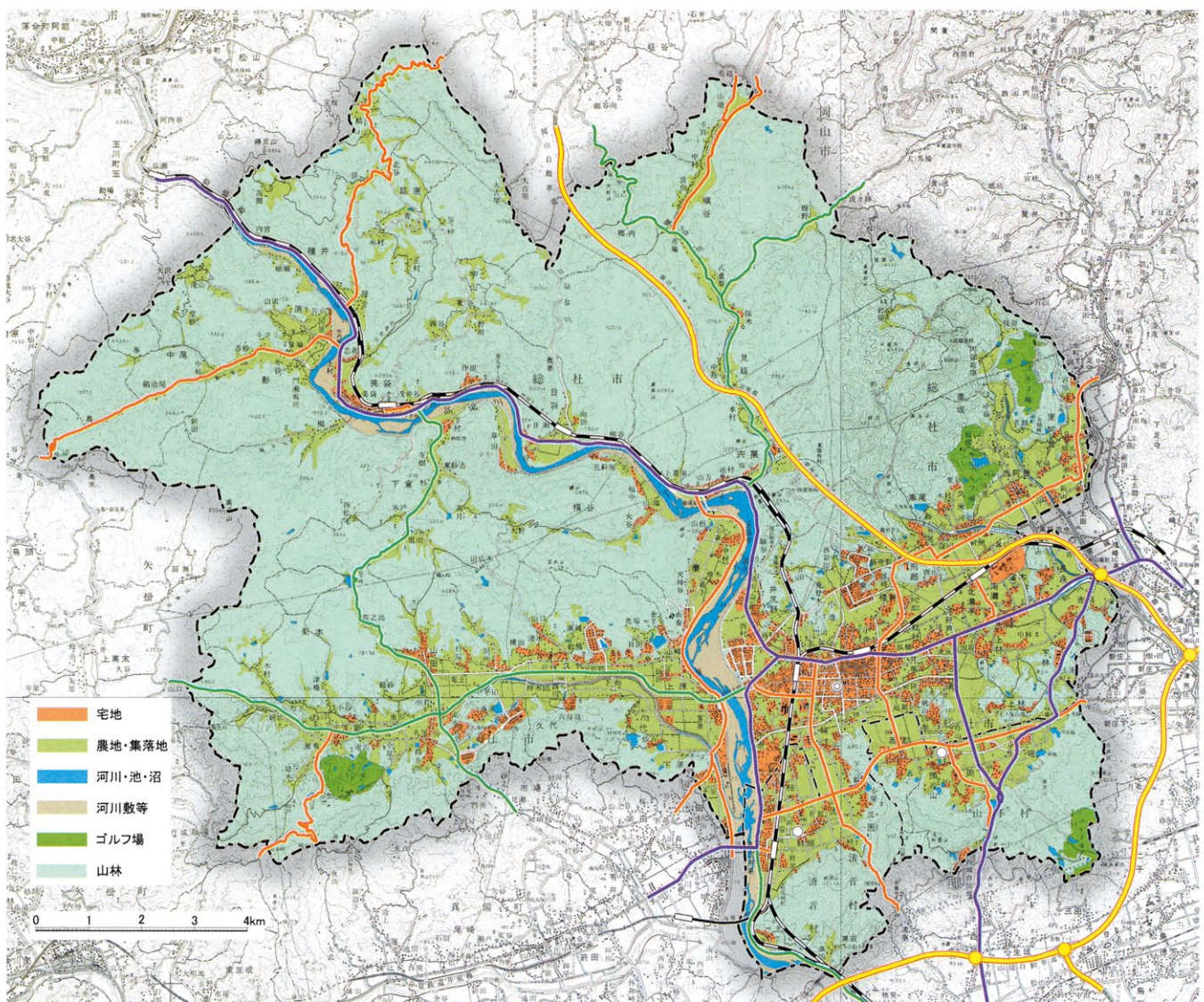
3市村は、山陽自動車道、岡山自動車道などの高規格幹線道路や、JR伯備線、吉備線、井原鉄道などの交通網の結節点となっています。また、岡山空港にも近いことから、中四国の広域交通の結節点でもあり、広域交通拠点としての発展性の高い地域です。

(3) 土地利用

地域の北部については、そのほとんどが山地や丘陵地であり、高梁川に流れ込む支流沿いの平坦地に集落地が形成されていたり、農地として利用されていたりします。

地域の南部における高梁川の両岸には平坦地が広がっており、市街地が形成されています。市街地の周辺では農地が広がっています。

●土地利用現況図



(4)産業

①農業

岡山県平均と比べると1戸当たりの経営耕地面積、農業産出額がともに低く、農業の占める割合は比較的低いといえます。なお、栽培の中心は米や果樹です。

また、特産品をあげると、総社市がマスカット、桃、ナス、山手村がセロリ、メロン、桃、清音村がスイートコーン、イチゴとなっています。

	総農家数 戸	経営耕地面積 ha	農業産出額 千万円	1戸当たり 経営耕地面積 a	1戸当たり 年間農業産出額 万円
総社市	3,455	1,946	374	56.3	108.2
山手村	307	188	49	61.2	159.6
清音村	313	197	30	62.9	95.8
3市村計	4,075	2,331	453	57.2	111.2
岡山県	90,053	58,106	13,620	64.5	151.2

資料：平成12（2000）年世界農林業センサス
平成13～14（2001～2002）年岡山県農林水産統計年報

②商業

年間商品販売額をみると、総社市が地域計の約95%を占めています。人口千人当たり小売業商店数では、3市村とも岡山県全体の平均を下回っています。1商店当たり年間商品販売額では総社市が岡山県全体を上回っていますが、総体的には、3市村は人口に比べて年間商品販売額も低く、商業機能の集積・向上が課題といえます。

	小売業 数 店	年間商品 販売額 百万円	人口1,000人当たり 小売業商店数 店	1商店当たり 年間商品販売額 万円
総社市	535	54,636	9.43	10,212.3
山手村	28	1,468	6.69	5,242.9
清音村	26	1,456	4.58	5,600.0
3市村計	589	57,560	8.84	9,772.5
岡山県	21,099	1,959,994	10.75	9,289.5

資料：平成14（2002）年商業統計調査

③工業

年間製造品出荷額等をみると、総社市が輸送用機械器具を中心に、地域計の約95%を生産しています。総社市は、千人当たり事業所数で岡山県平均を上回っており、1事業所当たり年間製造品出荷額等で高い数値を示しています。

	事業所数 事業所	従業者数 人	製造品 出荷額等 百万円	人口1,000人当たり 事業所数 事業所	1事業所当たり 製造品出荷額等 万円
総社市	151	8,754	218,736	2.66	144,858.3
山手村	6	153	1,576	1.43	26,266.7
清音村	12	275	8,804	2.11	73,366.7
3市村計	169	9,182	229,116	2.54	135,571.6
岡山県	4,706	154,606	6,289,547	2.40	133,649.5

資料：平成14（2002）年工業統計調査